

Impact of double positive for anti-centromere and anti-SS-A/Ro antibodies on clinicopathological characteristics of primary Sjögren's syndrome: a retrospective cohort study.

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2018-09-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00052097

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



論文内容の要旨及び審査結果の要旨

医薬保博
受付番号 甲第 141 号 氏名 鈴木 康倫
論文審査担当者 主査 中尾 眞二

副査 和田 隆志

竹原 和彦

学位請求論文

題 名 Impact of Double Positive for Anti-centromere and Anti-SS-A/Ro Antibodies on Clinicopathological Characteristics of Primary Sjögren's Syndrome: a Retrospective Cohort Study

掲載雑誌名 Modern Rheumatology 2018 年掲載予定

シェーグレン症候群（以下、SS）は涙腺、唾液腺のリンパ球浸潤に伴う乾燥症状を特徴とする自己免疫疾患である。特異的自己抗体である抗 SS-A/Ro 抗体（SS-A）が疾患標識抗体として全ての分類基準に含まれているが、陰性例も存在する。抗セントロメア抗体（ACA）は当初限局型全身性強皮症の疾患標識抗体として報告されたが、SS においても認められることがある。ACA 陽性 SS は独立したサブグループとして知られており、強皮症的特徴を有する一方で、ACA 陰性例と比較して高度の乾燥症状を呈する。自己抗体の組み合わせから、ACA 陽性 SS は 2 つのグループに分けられる。すなわち、ACA/SS-A 両者陽性 SS と、ACA 陽性 SS-A 陰性 SS（ACA 単独陽性 SS）である。この 2 グループは異なる臨床的特徴を示すと考えられるが、これまで ACA 陽性 SS 全体の報告は存在するものの、2 群間の比較に関するデータは少なかった。本研究では診断のため全症例に小唾液腺生検を施行し、108 例の原発性 SS 確診例を検討した。診断時点での ACA および SS-A プロファイルにより 4 群に分類し、ACA/SS-A 両者陽性 SS の臨床病理学的データ、観察期間中に発症した臓器病変、診断時の保存血清におけるサイトカイン濃度を他群と比較した。得られた結果は以下のように要約される。

1. ACA/SS-A 両者陽性 SS は、SS-A 単独陽性 SS と比較して診断時及び発症時に高齢で、抗核抗体陽性率が高く、Raynaud 現象の頻度が高かった。
2. ACA/SS-A 両者陽性 SS は、ACA 単独陽性と比較すると血清 IgG 高値で、疾患活動性指標である EULAR Sjögren's Syndrome Disease Activity Index (ESSDAI) が高値であった。
3. ACA 陽性の 2 群は Raynaud 現象のような全身性強皮症を示唆する症候を呈するものの、観察期間中に皮膚硬化が進展した症例は 1 例もなかった。

本研究の結果から、ACA/SS-A 両者陽性 SS は、ACA 単独陽性例および SS-A 単独陽性例とは異なる臨床的特徴を示すことが明らかとなった。ACA 陽性 SS は全身性強皮症と異なる独立した集団であることも示唆された。

本研究は ACA/SS-A 両者陽性 SS の臨床像を初めて明らかにしたものであることから学位に値すると判断された。